

ワールド・アイランド・フォーラム・ラウンドテーブル (3月11日(火) 15:40-15:50)

- 笹川陽平会長、太平洋島嶼国首脳の皆様、御列席の皆様、外務副大臣の宮路拓馬でございます。
- 私の地方である鹿児島県には28の有人離島があり、離島が抱える共通の課題には深い理解があります。
- そうした意味で、本日は、日本政府を代表して御挨拶でき光栄です。
- 日本財団と笹川平和財団は、日本と地域の友人と共に議論し、共に課題に取り組むことを通じ、長年、精力的に、そして、幅広く、太平洋島嶼国の支援に取り組まれてこられました。本日の会合開催を歓迎し、両財団のイニシアティブに敬意を表します。
- 本日は、太平洋島嶼国地域における日本政府の取組について述べたいと思います。
- 昨年7月、東京において日本政府は第10回太平洋・島サミット(PALM10)を開催しました。御列席の首脳・PIF事務局長にも御出席いただき、PIFの「2050年戦略」に定められる7分野に沿って太平洋島嶼国と日本の共通の課題を議論しました。
- 日本は、PALM10で採択された首脳宣言及び共同行動計画に従って、着実にコミットメントを果たしていきます。

- 近年、国際情勢は大きく変化しています。ロシアによるウクライナ侵略や現下の中東情勢、また、感染症や気候変動をはじめとする地球規模課題など、国際社会は複合的な危機に直面しています。
- 太平洋島嶼国を取り巻く環境も複雑化しています。基本的価値と原則を共有する太平洋島嶼国と共に、自由で開かれた国際秩序を維持し強化していくことが重要です。
- このような環境において、日本は、「2050年戦略」及び地域の一体性を力強く支持し、協力を進めるべく、太平洋島嶼国のニーズに引き続きしっかりと耳を傾けていきます。
- とりわけ、日本は、同じ島国として、気候変動が「存続に関わる唯一最大の脅威」であるとの危機感を完全に共有しています。
- 日本はPALM10で「太平洋気候強靱化イニシアティブ」を発表しました。これは、気候変動に対して日本の技術、知見及び資金を活用し、①防災能力の強靱化、②脱炭素化の推進、③島嶼国自身の取組の支援、の3本柱にオールジャパンで取り組むものです。

- このイニシアティブの一環として、このたび、日本は P I F の「太平洋強靱性ファシリティ（P R F）」に対する 3 百万米ドルの拠出を決定しました。
- 日本として、P R F を通じ、気候変動や災害リスクに対する太平洋島嶼国の脆弱性克服や強靱性に貢献できることを嬉しく思います。
- また、自然災害の影響を強く受ける日本と太平洋島嶼国地域は、これまでも幾多の苦難に直面し、互いに助け合ってきました。
- 昨年 1 2 月にバヌアツを襲った地震被害に対しては、緊急物資の供与や、医療チーム及び調査チームの派遣に加え、先週、喫緊の課題である瓦礫除去や給水支援のための復旧機材の供与を決定しました。
- また、本日は東日本大震災の発災から丸 1 4 年となります。これを含む、日本が様々な災害を経験して培ったノウハウを活用し、「ビルド・バック・ベター」の考えの下、復興に貢献できるような協力を進めていく考えです。
- 民間の取組とも連動しながら、P A L M 1 0 でも確認したとおり、日本政府としても、太平洋島嶼国と共通の課題に共に取り組み、将来に向けて「共に歩む」関係を強化していきます。

- 日本と太平洋島嶼国は、太平洋の海と、深い歴史的つながりによって結ばれてきました。古くは19世紀からの人と人との交流に始まり、各国の独立以前から、日本は太平洋島嶼国との協力関係を築いてまいりました。
- 本年は、2025年大阪・関西万博が開催されます。太平洋島嶼国のナショナルデー開催を通じ、日本と太平洋島嶼国とのキズナを更に深めたいと思います。
- PALMは3年に一度開催されており、次回のPALM11は2027年に予定されています。日本は引き続き、太平洋島嶼国と共に歩み、各国及びPIFとの対話を深めてまいります。
- 本日のディスカッションが実りあるものとなることをお祈りいたします。御清聴ありがとうございました。